

表1 日本で承認されている生物学的製剤(2025年5月時点)<sup>3)</sup>

生物学的製剤 (発売商品名)	エクリズマブ (ソリリス)	ラブリズマブ (ユルトミリス)	サトラリズマブ (エンスプリング)	イネビリズマブ (ユプリズナ)	リツキシマブ (リツキサン)
ターゲット	補体C5(免疫に関わるタンパク質)		IL-6(サイトカイン)受容体	CD19陽性B細胞 (リンパ球の一種)	CD20陽性B細胞 (リンパ球の一種)
ターゲットの NMOSDに 関わる主な作用 (主な発症原因)	AQP4抗体により補体が 過活動状態となり アストロサイトを攻撃		IL-6による刺激でAQP4抗体産 生促進、炎症を惹起	CD19陽性B細胞 がAQP4抗体産生 細胞に分化	CD20陽性B細胞 がAQP4抗体産生 細胞に分化
NMOSD 患者さんの 体内での主な効果	終末補体介在性のアストロサイトの 損傷等を抑制		IL-6の作用を抑制することで AQP4抗体産生や炎症を抑制	CD19陽性B細胞 を除去することで AQP4抗体産生を 抑制	CD20陽性B細胞 を除去することで AQP4抗体産生を 抑制
特に注意すべき 副作用	髄膜炎菌感染症ほか		感染症(風邪をひいたときに熱が でないことなどに注意)	感染症	感染症
投与経路	点滴静注	点滴静注	皮下注 (自己注射含む)	点滴静注	点滴静注
維持期投与頻度	2週に1回	8週に1回	4週に1回	6ヵ月に1回	2週間間隔で2回、 6ヵ月ごと
開発メモ	・ユルトミリスはソリリスを作用時間 が長くなるように改良したもの ・他の自己免疫疾患の治療薬でもある		・NMOSDのために日本で開発された薬 ・アクテムラ(リウマチなど自己免疫疾 患の治療薬として数十年使われてきた 薬)の作用時間が長くなるように改良 したもの	・広範囲のB細胞に 作用 ・NMOSDのために 開発された薬	・古くから多くの自 己免疫疾患で使 用されている薬

## よりよい薬の開発には患者さんの協力が不可欠

日本のNMOSD治療は世界の先端を行っており、5種類もの生物学的製剤が使用できる国は他にありません。一方、今でも再発し、後遺症をもつ患者さんも少なくありません。今後よりよい治療薬が開発されるためには患者さんの協力が必要不可欠です。臨床試験などにチャレンジ精神をもって参加していただきたいです。

1) Vanda A Lennon, et al. *Lancet*, 2004, 364(9451): 2106-2112

2) 読売新聞 2007年7月25日付、読売新聞 2008年4月18日付

3) 多発性硬化症・視神経脊髄炎スペクトラム障害診療ガイドライン2023をもとにNMOJで作成

## セッション2 医師と患者の交流

### NMOSD治療の継続と選択

司会：白石理央

進行：中島一郎先生

中島先生のお声がけにより、開催地・九州でNMOSD診療にあたる5名の先生方にご参集いただきました。質問は患者会メンバーより事前募集し、選出した質問から議題を挙げて先生方の意見を伺いました。どの質問にも患者さんに寄り添う複数の回答をいただき、密度の濃いパネルディスカッションとなりました。中島先生と岡田先生に、電動車椅子WHILLの試乗体験をしながらセッション2に移動していただく演出も、皆さんに喜んでいただきました。

